

# 令和4年度 寄宿舍研究について

## I 研究テーマ

### 「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる指導実践の取組」 ～寄宿舍生の実態と手立ての共有～

## II 研究テーマ設定の理由

令和3年度に、全体研究テーマに基づいた寄宿舍研究に取り組むにあたり、以下の点から寄宿舍研究テーマを設定した。詳細については令和3年度の研究中間まとめ資料を参照いただきたい。

- 1 学校教育目標・寄宿舍教育目標から
- 2 寄宿舍の運営方針から
- 3 これまでの寄宿舍研究から

## III 1年次の研究について

### 1 研究内容

1年次の研究では以下の内容に取り組んだ。詳細は令和3年度の研究中間まとめ資料を参照いただきたい。

- (1) 寄宿舍研究の基本構想と共通理解
- (2) 個別の生活指導計画の作成と見直し
- (3) 目標達成のための実践とPDCAサイクルによる手立ての改善
- (4) 個別の生活指導計画の活用、改善
- (5) 研究のまとめ

### 2 研究の成果と課題

1年次研究の成果と2年次の研究に向けた課題を以下にまとめる。

#### (1) 成果

##### 実践記録シートの活用について

実践記録シートは、観点別で評価する項目を追加したことで、どの力がついたのか分かりやすくなった。

##### 寄宿舍研究に関する職員アンケートの回答から

- ・ 主体的な生活について改めて考えることができた。
  - ・ 定期的に話し合いができ、意識して取り組むことができた。
  - ・ 生徒との関わり方について、改めて考えるきっかけになった。
  - ・ 難しく考えずに取り組むことができた。
  - ・ 個別の生活指導計画を活用したのはよかった。取り組みやすかった。
- などの意見があげられた。

## (2) 課題

### 実践記録シートの活用について

観点別評価の記載の仕方について、指導員の研修の必要がある。

### 寄宿舎研究に関する職員アンケートの回答から

- ・ 研究会で情報共有はできたが、日々の取り組みや実践が不明確で指導員間の共有ができていたとはいえない。
- ・ 話し合う場を設定したり、取り組むための仕組みがあればよかった。
- ・ 情報共有が短い期間でできるとよい。日々の棟会でもう少し話題にしてもよいと思う。
- ・ うまくいかなかった事例について、どうしてうまくいかなかったのか、何がよくなかったのか、どうすればよかったのかも協議しないと、自分たちの成長につながらないのではないかと。良い点、反省、課題、改善点を考える研究にしていきたい。
- ・ 全体に関わる活動や行事などに取り組んだ事例を取り上げると、指導員の支援をより高めていけるのではないかと。
- ・ 研究のための研究ではなく、普段行っていることを深める研究がよい。

## (3) 次年度の研究に向けて

- ・ 実践事例について検討する場として、年4回の寄宿舎研究会の他に、毎日行っている棟ごとの連絡会（棟会）の中で実践事例について情報を共有する時間を設ける。
- ・ PDCA サイクルを再確認する必要がある。評価を見て、達成が難しいときには手立てを見直し、次の計画につなげるというサイクルをこれまでより意識して、目標を達成できるよう実践する。

## IV 2年次の研究内容と方法

### (1) 寄宿舎研究の基本構想と共通理解

### (2) 実践記録シート、生活指導組み立てシートを活用した個別の生活指導計画の作成と活用及び評価

### (3) 目標達成のための実践と PDCA サイクルによる手立ての改善

### (4) 研究のまとめ

## V 研究計画

月	期日、内容	主な内容
4	18日 寄宿舎研①	・ 令和4年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要について周知
5	20日 寄宿舎研② 27日 全体研究会①	・ 寄宿舎研究の内容、計画等について協議、資料の検討
6	17日 寄宿舎研③	・ 前期目標と指導計画の共有
10	14日 寄宿舎研④	・ 前期評価と後期指導計画の共有
1	20日 寄宿舎研⑤	・ 後期評価と次年度指導課題 ・ 寄宿舎研究の成果と課題
2	10日 寄宿舎研⑥ 24日 全体研究会②	・ 寄宿舎研究の反省・研究のまとめ

## VI 研究の推進にあたって

1 年次研究の課題として、指導員間の指導内容の共有不足や、評価と課題を意識した PDCA サイクルへのより深い理解の必要性があげられた。

そこで2 年次研究では、1 年次研究で使用した実践記録シートに加え、新たに指導と手立てを考案する様式として生活指導計画組み立てシートを作成し、生活指導計画の PDCA サイクルの流れを明確にしながら棟の指導員全員で指導計画立案と実践を行うこととした。

### 1 生活指導計画組み立てシートと実践記録シートの活用

個別の生活指導計画の手立てを考えるにあたり、「生活指導計画組み立てシート」【図 1】を新たに作成した。生活指導組み立てシートは、舎生を取り巻く環境（ヒト、モノ、コト）や、仮説の評価（望む着地点）を記入し、そこから支援の手立てを作成する整理メモ的な様式と捉えた。作成した手立ては1 年次研究で活用した実践記録シート【図 2】に記載し、学期末に評価と課題を整理して次の学期の生活指導組み立てシートの作成に活用する流れとした。

### 2 生活指導計画の職員間共有を重視

各棟、対象舎生一名の選出から、組み立てシート及び実践記録シートの作成はすべて棟会を通して棟の指導員全員で話し合い行うこととした。

様式1 生活指導計画組み立てシート (学年 氏名 )			実践記録シート 様式2	
【長期目標】			対象生徒	支援者
【短期目標】			目指す主体的な姿（長期間目標）	
ヒト（伝達と共感）	モノ（道具と場の設定）	コト（活動内容と展開）	短期目標	
			指導上の留意点（手だて）	生徒の様子と成果と評価 自立的行動○ 注意喚起□ 行動の示唆を要す△
			・ ・ ・	
指導の手立て（できる状況づくり） ※「○○できるように□□する」記述				
評価（着地点）から見る手立ての考察 【知識・技能】			【知能・技能】	
【思考力・判断力・表現力】			【思考力・判断力・表現力】	
【主体的に取り組む態度】			【主体的に取り組む態度】	
【その他】			【その他】	
P（計画）、A（改善）に使用			D（実行）、C（評価）に使用	

【図 1】生活指導計画組み立てシート

【図 2】実践記録シート

Ⅶ 研究の実際

1 実践事例 1

(1) 男子棟の生活指導計画組み立てシート及び実践記録シートの活用（前期）

棟の指導員間で話し合い長期短期の目標を設定し、生活指導計画組み立てシート（様式1）を使用して指導の手立てを考え共有した。生活指導計画組み立てシートは、対象舎生を取り巻く環境因子と仮定した評価として指導員が望む着地点を記入し、どの角度から何を使用した手立てが行えるのか検討した。考案した手立ては実践記録シート（様式2）に記入し棟の指導員間で共有した。学期末に実践記録シートで手立てに対する評価を行い、望む着地点にどれだけ近づけたのか観点別に評価と振り返りを行った。【図3】【図4】

評価と課題から目標の見直しを行い、再び生活指導計画組み立てシートを使用して後期の手立てを考え実践記録シートと併用し指導実践を行った。

様式1 生活指導計画組み立てシート（前期）

(長期目標)身なりを整えることができる。		
(短期目標)服の前後を間違わないように着ることができる。		
ヒト(伝達と共感) ・寄宿舎指導員 ・学校職員(教諭) ・友人 ・保護者 姉 ・ひだまり はばたき	モノ(道具と場の設定) ・イラスト・文字 ・カード ・写真 ・カガミ ・しるし ・部屋の利用(人の刺激が少ない) ・着替えコーナー 脱衣場	コト(活動内容と展開) ・職員の声掛けて動ける。 ・イラスト、文字の利用で理解度上がる可能性 ・「あ!」の音声ヒントで異変に気づく。 ・人刺激が少ない場所で落ち着いて取り組める。 ・しるしの活用による実験。 ・制服は間違えない。前開き可。 ・そのまま着れるような置き方可(ひだまり)。
↓	↓	↓
指導の手立て(できる状況づくり) ※「〇」でできるように□□する」記述 ① 着替えに集中できるように、室内にパーテーション等を利用した着替えコーナーを作る。 ② 着替えに集中できるように、押入れの場所を奥に配置する(他舎生と交換)。 ③ 正しい着替え方が意識できるように、手本となる写真を着替えコーナーに掲示する。 ④ 正しく着替えができるように、職員と着替えを行い、自分の姿をカガミ等で確認する。 ⑤ 正しく着替え方を意識できるように、着替えの確認が終わったらチェック表に自分で印をつける		
評価(着地点)から見る手立ての考察 ↑ 【知識・技能】 ・服の前後の認知 ・方向を合わせる(技能)。 【思考力・判断力・表現力】 ・自分で着ることができる。 ・気持ちよく着ることができる(いずくない)。 ・方向を合わせて着ることができる(判断)。 【主体的に取り組む態度】 ・カガミなど利用し、自分で判断し、確認して着ることができる。 【その他】 ・何が落ち込んでいる部分なのか整理する必要がある。 ・服の前後の見分け方(ポケット位置など)ある程度理解している(注意力がそれるとできない)。		

【図3】男子棟生活指導計画組み立てシート（前期）

様式2 実践記録シート（前期）

対象生徒 Y	支援者 けやき様職員
目指す主体的な姿(長期年間目標) 身なりを整えることができる。	
短期目標 服の前後を間違わないように着ることができる。	
指導上の留意点(手だて) ① 着替えに集中できるように、室内にパーテーション等を利用した着替えコーナーを作る。 ② 着替えに集中できるように、押入れの場所を奥に配置する(他舎生と交換)。 ③ 正しい着替え方が意識できるように、手本となる写真を着替えコーナーに掲示する。 ④ 正しく着替えができるように、職員と着替えを行い、自分の姿をカガミ等で確認する。 ⑤ 正しく着替え方を意識できるように、着替えの確認が終わったらチェック表に自分で記をつける。	生徒の様子と成果と評価 自立的行動○ 注意喚起□ 行動の示唆を要す△ ① □パーテーションの中で着替えをすることは定着している。パーテーションがあれば着替え中に活動する範囲が狭くなる。 ② 指導がしやすいようにパーテーションの位置をドア近くに設置したので、他生徒との押入れの配置換えはまだ行っていない。 ③ 指導も定着してきたので、今後はパーテーションの位置を奥にして押入れ交換を行うことを検討する。 ④ 口頭での指示を落ち着いて理解している様子が見られたので手本写真の掲示は行っていない。今後は口頭ではなく、視覚的に理解し実践できるように手本写真の掲示を行う。 また衣服の後ろに目印のシールを貼る手立てを追加して行うと、間違えることなく着替えをすることができた。 ⑤ □着替え終了後、職員の声掛けて洗面所の鏡を使って姿を見ることができる。しかし、本人にとっては「鏡で確認すること＝自分の着替えが間違っている」との誤認があるため改善が必要。 職員の声掛けの統一、確認動作順序を決めておく等、職員間の再確認が必要。 ⑥ 自ら正否を認識してチェック表に記をつける作業は難しいと判断し行っていない。
指導の振り返りと評価(観点別評価) 【知識・技能】 ・服の前後の認知(知識)・・・職員の間いに前後の間違いなく答えることができる。 ・服の方向を合わせる(技能)・・・着替えを行動に移すと間違える。動きが入ると失敗する。他の動きや音が気になり、集中力が欠けると上手に取り組めない。 【思考力・判断力・表現力】 ・自分で服を着る・・・着替え始めると間違える。動きが入ると失敗する。 ・気持ちよく着る(違和感を感じない状態をつくる)ことができる・・・根本的に違和感がわからない様子。 ・方向を合わせて着ることができる・・・着替えを行動に移すと間違える。動きが入ると失敗する。 ※ 全体的に他人の動きや音が気になると集中力が欠け、思考力及び判断力が弱くなる傾向がある。 【主体的に取り組む態度】 ・鏡などを利用し、自分で判断、確認して着ることができる・・・現段階では難しい。 【その他】 ・何が落ち込んでいる部分なのかを知る必要がある。 ・着替えの成功には集中力が関わっている様子が見られる。他人の動き、音の遮断等集中できる環境を整えることが必要。 ・衣類の背中にシールを貼る視覚支援は成功している。	

【図4】男子棟実践記録シート（前期）

(2) 男子棟の生活指導計画組み立てシート及び実践記録シートの活用（後期）

前期の評価及び生活指導中に見えてきた新たな実態をもとに、再び生活指導計画組み立てシートを使用して前回と同様のやり方で後期の指導の手立てを考えた。前期の指導で有効だと思われるものには印をつけ、新しいアイデアは新規でシートに記入して後期の手立てに取り入れた。達成が難しいと思われるものは、視点や目標を変更するなどして調整を行った。【図5】

実践記録シートの手立てに対しては、「自立行動」「注意喚起」「行動の示唆を要す」の3つの点から評価を行い、実態を細かく把握できるようにした。評価の最後には1年間の指導の振り返りを行い、次年度の指導に関する課題を記した。【図6】

これらの実践はすべて棟会において棟の全指導員間で共有している。

様式1 生活指導計画組み立てシート（後期）

<p>(長期目標) 身なりを整えることができる。</p>		
<p>(短期目標) 服の前後を間違わないように着ることができる。</p>		
<p>ヒト (伝達と共感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎指導員</li> <li>・学校職員 (教諭)</li> <li>・友人</li> <li>・保護者 姉</li> <li>・ひだまり はばたき</li> </ul>	<p>モノ (道具と場の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト</li> <li>・カード</li> <li>・カガミ</li> <li>・部屋の利用 (人の刺激が少ない)</li> <li>・着替えコーナー 脱衣場</li> </ul>	<p>コト (活動内容と展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の声掛けで動ける。</li> <li>・イラスト、文字の利用で理解度が上がる可能性</li> <li>・「あ!」の音声ヒトで異変に気づく。</li> <li>・人刺激が少ない場所で落ち着いて取り組める。</li> <li>・しるしシールの活用が有効。</li> <li>・制服は間違えない。前開き可。</li> <li>・そのまま着れるような置き方可 (ひだまり)。</li> </ul>
<p>指導の手立て (できる状況づくり) ※「〇〇できるように□□する」記述</p> <p>① 着替えに集中できるように、室内にパーティション等を利用した着替えコーナーを作る。 パーティションと押入れの場所は自室の奥に配置する (他舎生と交換)。</p> <p>② 着替えに集中できるように、耳栓を使用して外部の刺激を遮断する。</p> <p>③ 正しい着替え方が意識できるように、手本となる写真を着替えコーナーに掲示する。</p> <p>④ 正しく着替えができるように、職員と着替えを行い、自分の姿をカガミ等で確認する。</p> <p style="text-align: center;">↓訂正</p> <p>正しい着替え方が意識できるように、着替えから確認 (姿見) までの流れを明確にして実施する。 —5正しく着替え方を意識できるように、着替えの確認が終わったらチェック表に自分で記をつける。—</p> <p>⑤ 正しく着替えができるように、写真や文字で職員と着替えの流れを確認してから行う。</p>		
<p>評価 (着地点) から見る手立ての考察</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服の前後の認知</li> <li>・方向を合わせる (技能)。</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で着ることができる。</li> <li>・方向を合わせて着ることができる (判断)。</li> </ul> <p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カガミなど利用し、自分で判断し、確認して着ることができる。 (難しい)</li> <li>・職員と動きの流れを確認した後、自分で判断し流れに沿って行動することができる。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が落ちている部分なのか整理する必要がある。</li> <li>・服の前後の見分け方 (ポケット位置など) ある程度理解している (注意力がそれとできない)。</li> </ul>		

【図5】 男子棟生活指導計画組み立てシート（後期）

様式2 実践記録シート（後期）

対象生徒 Y	支援者 けやき棟職員
<p>目指す主体的な姿 (長期年間目標)</p> <p>身なりを整えることができる。</p>	
<p>短期目標</p> <p>服の前後を間違わないように着ることができる。</p>	
指導上の留意点 (手だて)	生徒の様子と成果と評価
<p>① 着替えに集中できるように、室内にパーティションを使って着替えコーナーを作る。</p> <p>② 着替えに集中できるように、押入れの場所を奥に配置する (他舎生と交換)。</p> <p>③ 正しい着替え方が意識できるように、手本となる写真や文字を着替えコーナーに掲示する。</p> <p>④ 衣服の後ろに目印のシールを貼る。</p> <p>⑤ 着替えの都度、鏡で確認することを伝える。</p>	<p>① 声掛けや見守りは必要だったが、パーティションの中で着替えることが定着した。周囲からの刺激 (人、声、音等) がある程度遮断されたことで、落ち着いて着替えをすることが増えた。</p> <p>② 見守りがしやすいようにパーティションを入り口側に設置し、取り組みが定着してきたため、他舎生との押し入れの交換は行わなかった。</p> <p>③ 最初は掲示物に注目し、意識している様子がみられたが、徐々に見る気持が薄れ、指導員に声を掛けられてから写真や文字を見るようになった。</p> <p>④ シールが貼ってある面を見て (上にして)、上衣を被り、下衣を間違わずに履くことができた。シールは目に入りやすく、前後の確認に迷うことがなくなった。</p> <p>⑤ △「着替え→鏡で確認」を一連の流れとしたことで、鏡で確認=自分の着替えが間違っている」という誤認が改善された。指導員と一緒に鏡で確認することがあたりまえになり、定着してきた。</p>
<p>指導の振り返りと評価 (観点別評価)</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服の前後の認識 (知識)・・・衣服の前後が分かり、認識できている。</li> <li>・服の前後を確認して着る (技能)・・・前後は認識できるが、いざ行動に移すと間違えてしまう。人や声、音等が気になり、集中力が欠けると上手く取り組みない。</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で着替えることができた。</li> <li>・設置した着替えコーナーが、自分の着替えをする場所だと分かり、移動して着替えることができた。</li> <li>・気持ちよく着る (違和感のない状態をつくる)・・・パーカーの前後を間違えて着用しても不快に感じなかった。</li> <li>・衣服の後ろに貼ったシールを見て、間違えずに着ることができた。</li> </ul> <p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替え後に、鏡で自分の姿を確認するようになった。</li> <li>・パーティションの中で着替えることが定着した。</li> </ul> <p>【その他】</p> <p>【指導の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティションを使って視覚的な刺激を遮断し、集中できる環境を整えることができた。</li> <li>・シールを使った支援は上手くいっているが、シールがなくて前後を間違えずに着るためにはどうしたらよいか。衣服の前後を間違えることによる不快に感じづらいうことや、見た目を気にしない等、感覚的なところへのアプローチの方法を検討するにあたり、さらなる実態の検証が必要である。</li> <li>・日々の着替えの様子を記録すればよかった。記録からみえてくるものもあるのではないかな。</li> </ul>	

【図6】 男子棟実践記録シート（後期）

## 2 実践事例2

### (1) 女子棟の生活指導計画組み立てシート及び実践記録シートの活用（前期）

女子棟も男子棟と同様に、生活指導計画組み立てシートと実践記録シートを使用して目標と手立ての作成を行った。【図7】【図8】

対象舎生の実態として、場面が変わると緊張して意思表示をすることが難しくなるため、前期は棟で取り組める係活動を中心に行った。言葉だけではなく、うなずきやジェスチャー、手話などの自己表現を指導員間で共有し、その手段を指導に取り入れることにより自らの意思表示を導くことができた。

様式1 生活指導計画組み立てシート（前期）

<b>（長期目標）</b> 挨拶をすることができる。		
<b>（短期目標）</b> 意思表示をすることができる。		
<b>ヒト（伝達と共感）</b> ・指導員 ・つつじ棟の寄宿舎生 ・学校職員	<b>モノ（道具と場の設定）</b> ・夕食後に布巾、消毒用布巾を洗濯し、干す。 ・布巾 ・洗濯場 ・メモ帳 ・手話 ・余暇時間	<b>コト（活動内容と展開）</b> ・意思の伝達が可能（言葉、目を合わせる、頷き、ジェスチャー、手話、メモ等）。 ・褒めることにより、達成感を感じる。 ・指導員の話の聞くことができる。 ・保健係の活動に参加。 ・布巾の洗濯。
↓	↓	↓
<b>指導の手立て（できる状況づくり）</b> ※「〇〇できるように□□する」記述 ・様々な意思伝達の方法を指導員間で共有する。 ・自己の状態や状況に合わせて意思伝達ができるよう、指導員と一緒に選択し方法を確認する。 ・意思を伝えることができたときには、行動を認め褒める。 ・係活動で複数の指導員とやり取りができるよう、役割分担と場を設定する。		
<b>評価（着地点）から見る手立ての考察</b>		
<b>【知識・技能】</b> ・意思伝達の方法を知る。 ・相手へ伝える方法を身につける。		
<b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・自己の状態や状況に合わせて、伝える方法を選択できる。		
<b>【主体的に取り組む態度】</b> ・自分から相手のところに行き、お願いすることができる。 ・自分から動き、伝えることができる。		
<b>【その他】</b>		

【図7】女子棟生活指導計画組み立てシート（前期）

様式2 実践記録シート（前期）

対象生徒 S	支援者 つつじ棟
<b>目指す主体的な姿（長期年間目標）</b> 挨拶をすることができる。	
<b>短期目標</b> 意思表示をすることができる。	
<b>指導上の留意点（手だて）</b> ① 意思表示は、発語だけではなく、頷き等も認める。意思表示を引きだすために指導員から挨拶の声をかける。 ② 「できるか」「できないか」本人の意思を確認する。 ③ 「A」か「B」か選択肢を与えて意思決定を促す。 ④ 布巾当番に取り組む。布巾干しの際に職員室に声をかける。	<b>生徒の様子と成果と評価</b> 自立的行動○ 注意喚起□ 行動の示唆を要す△ ① ○頷く等の意思表示から、自分から声をかける姿が変わってきた。 ② ○その日の体調や心の状態でできる時、できない時を認めたことにより、自主的に動くことが増えてきた。 ③ ○「A」か「B」かの選択肢を与えることで、次の行動もスムーズになってきた。 ④ ○「布巾を干しました」と話してから、職員室に入ることができるようになってきた。
<b>指導の振り返りと評価（観点別評価）</b>	
<b>【知能・技能】</b> ・意思伝達の方法を身につけることができた。言葉だけでなく、目を合わせる、頷き、ジェスチャー、手話、メモなどを活用し、できるかできないかの自己表現が容易になってきた。	
<b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・自己の状態や状況に合わせて、意思伝達の方法を選択し伝えることができるようになった。 ・場面によって、表現の仕方の違いや言葉の使い分けができるようになった。 ・話されたことを理解して、すぐに行動に移すことができるようになった。	
<b>【主体的に取り組む態度】</b> ・できないときには理由を伝え、お願いすることができた。そして、翌日に自ら仕事をすることができた。 ・係会で（〇〇はできるから、やれる）との発言ができるようになった。 ・他の人の動きを見て、自分がどうしたらよいかを職員に聞けるようになった。	
<b>【その他】</b>	

【図8】女子棟実践記録シート（前期）

(2) 女子棟の生活指導計画組み立てシート及び実践記録シートの活用 (後期)

前期の実践記録シートの評価から、後期は棟だけではなく学校職員 (舎監) にも意思表示ができるように目標を変更した。新しく実態把握できた内容については、下線をつける等して棟内で共有し、後期の手立てとして取り組みを追加した。【図9】【図10】

様式1 生活指導計画組み立てシート (後期)

<p>(長期目標) 挨拶をすることができる。</p>		
<p>(短期目標) 意思表示をすることができる。 <u>問いかけにジェスチャーやうなずきで答えることができる。</u></p>		
<p>ヒト (伝達と共感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員</li> <li>・つつじ様の寄宿舎生</li> <li>・学校職員</li> </ul>	<p>モノ (道具と場の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食後に布巾、消毒用布巾を洗濯し、干す。</li> <li>・布巾</li> <li>・洗濯場</li> <li>・メモ帳</li> <li>・手話</li> <li>・余暇時間</li> <li>・<u>食堂</u></li> <li>・<u>食事当番</u></li> </ul>	<p>コト (活動内容と展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思の伝達が可能 (言葉、目を合わせる、頷き、ジェスチャー、手話、メモ等)。</li> <li>・褒めることにより、達成感を感じる。</li> <li>・指導員の話を聞くことができる。</li> <li>・保健係の活動に参加。</li> <li>・布巾の洗濯。</li> <li>・<u>挨拶の定型文を提示する。</u></li> <li>・<u>食事当番。</u></li> <li>・<u>食事の挨拶をする。</u></li> </ul>
<p>↓ ↓ ↓</p>		
<p>指導の手立て (できる状況づくり) ※「〇〇できるように□□する」記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な意思伝達の方法を指導員間で共有する。</li> <li>・自己の状態や状況に合わせて意思伝達ができるよう、指導員と一緒に選択し方法を確認する。</li> <li>・<u>食事当番を担当し、挨拶の場面を設定する。</u></li> <li>・係活動で複数の指導員とやり取りができるよう、役割分担と場を設定する。</li> <li>・<u>職員室入室の挨拶ができるように定型文を書いておく。</u></li> <li>・意思を伝えることができたときには、行動を認め褒める。</li> </ul>		
<p>評価 (着地点) から見る手立ての考察</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思伝達の方法を知る。</li> <li>・相手へ伝える方法を身につける。</li> <li>・<u>場に合わせた挨拶ができる。</u></li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の状態や状況に合わせて、伝える方法を選択できる。</li> </ul> <p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から相手のところへ行き、お願いすることができる。</li> <li>・自分から動き、伝えることができる。</li> <li>・<u>当番活動として挨拶ができる。</u></li> </ul> <p>【その他】</p>		

【図9】 女子棟生活指導計画組み立てシート (後期)

様式2 実践記録シート (後期)

対象生徒 S	支援者 つつじ棟
<p>目指す主体的な姿 (長期年間目標)</p> <p>挨拶をすることができる。</p>	
<p>短期目標</p> <p>問いかけにジェスチャーやうなずきで答えることができる。</p>	
<p>指導上の留意点 (手だて)</p> <p>① 意思表示は、発語だけではせず、頷き等も認める。指導員から挨拶の声をかける。</p> <p>② 「A」か「B」か選択肢を与えて意思決定を促す。</p> <p>③ 食事当番を担当する。</p> <p>④ 布巾当番に取り組む。 布巾干しの際に職員室に声をかける。 職員室入室の挨拶ができるように定型文を提示する。</p>	<p>生徒の様子と成果と評価</p> <p>自立的行動〇 注意喚起□ 行動の示唆を要す△</p> <p>① 〇頷きの意思表示や手話などの方法も認めることにより、自らの気持ちを発する機会が増えてきた。自分の気持ちが相手に伝わることで、自信につながっている。</p> <p>② 〇選択肢があることで、その日の体調や心理状態を伝えることができるようになったため、自主的な行動につなげることができた。また、難しい時には、「お願いします」を伝えることができるようになってきている。</p> <p>③ 〇準備完了の声かけや「いただきます」の挨拶を話すことができるようになった。</p> <p>④ 〇職員室へ入室する際、緊張する場合はカードを使用しながら「布巾を干しにきました」と話ししてから、職員室へ入ることができるようになってきた。</p>
<p>指導の振り返りと評価 (観点別評価)</p> <p>【知能・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>意思伝達の方法を身につけたことで、状況に応じて挨拶ができるようになってきた。</u></li> <li>・<u>頷き、ジェスチャー、手話、メモを活用し、会話から問いかけに対しての発語が増えた。</u></li> <li>・<u>場に合わせた挨拶ができるようになってきた。</u></li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面によって、表現の仕方の違いや言葉の使い分けができるようになった。</li> <li>・話されたことを理解して、すぐに行動に移すことができるようになった。</li> <li>・<u>長期間欠席した後も、自己の状態や状況に合わせて意思伝達の方法を選択し、伝えることができた。</u></li> <li>・<u>フローチャートを用いることで、気持ちの整理ができ、行動の切り替えが容易になった。</u></li> </ul> <p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できないときには理由を伝え、お願いすることができた。</li> <li>・<u>本人が困ったときに、何で困っているかどの職員にでも話せるようになった。</u></li> <li>・<u>定型文があることで、安心して話すことができた。</u></li> <li>・他の人の動きを見て、自分がどうしたらよいかを職員に聞けるようになった。</li> </ul> <p>【指導の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に身に着けたい力について、目標を設定した。日々の生徒の様子について検会記録のフォルダの中に記録用紙を作成記録したことにより、日々の情報も共有することができた。</li> <li>・検会や研究会で支援方法について共通理解を図り、職員が同じ支援を行うことができた。</li> </ul>	

【図10】 女子棟実践記録シート (後期)

### 3 評価について

前期後期末に実践記録シートを使用して指導に対する二通りの評価を行った。一つは指導の手立てに対する「生徒の様子と成果と評価」であり、自立的行動○、注意喚起□、行動の示唆を要す△の3つの観点から、指導手立ての様子を振り返り評価を行った。もう一つは個別の指導計画を総合的に見た「指導の振り返りと評価」として「知能・技能」「思考力判断力・表現力」「主体的に取り組む態度」の3観点から評価した。これについては生活指導計画組み立てシート作成の際に「望む着地点」として仮定した評価を出しているのので、それにどの程度近づけたかを考慮しながら評価した。いずれも棟会などを通して、各棟指導員間で共有しながら行った。

### 4 1年間の指導の振り返り

1年間の指導を振り返り、棟指導員間で成果と課題を話し合った。共有した内容は次年度の指導計画考案時の引き継ぎとして、実践記録シートの評価欄に記載した。

#### (1) 男子棟指導の振り返り

- ・パーティションを使用して視覚的な刺激を遮断し、集中できる環境を整えることができた。
- ・シールを使用した支援は上手くいっているが、シールを使用せずに前後を間違えずに着るためにどのような方法があるか。
- ・衣服の前後を間違えることによる不快さを感じないことや、見た目が気にならない等の感覚的部分へのアプローチの方法を検討するために、さらなる実態把握が必要である。
- ・日々の着替えの様子を記録したほうが良い。記録から見えてくる実態があったのではないか。

#### (2) 女子棟指導の振り返り

- ・日々の生徒の様子について棟会記録のフォルダと記録用紙を作成し日々の情報を共有することができた。
- ・棟会や研究会で支援方法について共通理解を図り、指導員が同じ支援を行うことができた。

## VIII 研究のまとめ

1年次研究の課題から今年度は、指導の計画と評価について指導員間の共有を密にすることと、PDCAサイクルを分かりやすく整理して意識的に指導計画に取り入れることの2点にポイントを絞って取り組んできた。研究の成果と課題については、各棟会で指導実践をもとに振り返りを行い、寄宿舍研究会で全指導員で共有した。

また、今年度の寄宿舍研究について指導員対象のアンケートを実施し、研究様式について、指導の共有について、観点別の評価についてなどについての意見をまとめた。

### 1 全体的話し合いから

#### (1) 成果

- ・生活指導組み立てシートを活用することにより、舎生の実態や取り巻く環境について整理することができ、指導の手立てを導き出しやすかった。また、シートを用いて指導案を作成すると、分類が活字になるので、指導員間での共有がしやすかった。
- ・手立ての評価を達成のレベルごとに、自立行動、注意喚起、行動の示唆を要す、の3点に分けて行ったが、舎生の状態を指導員間で共有するのに役立った。
- ・棟会を活用し、指導員間で十分な情報共有を行い、指導法を検討し取り組むことができた。



## (2) 課題

- ・観点別評価についての理解が不足している。3観点の捉えが指導員間で不明確だったので、評価のポイントを合わせるのが難しかった。観点別評価については、学習の機会を設ける必要がある。また、シートへの記入方法も、舎生の成長を記述するのか、指導の振り返りとして手立について記述するのかが明確ではなかった。
- ・PDCA サイクルにも取り組んだが、さらなる意識が必要である。支援の見直しは行うことができたが、達成できる目標の設定や見直しなど、再度よく考えて行うべきであった。PDCA サイクルについても知識を深めるための学習が必要である。
- ・今回、研究用としての生活指導組み立てシートを作成したが、今までとは異なる視点からのアプローチができたと思うので、日常指導に使用できる実践的な様式の検討も行えばよい。

## 2 指導員のアンケートから

### (1) 研究方法、生活指導組み立てシート、実践記録シートについて

今回研究に使用した様式シートは、支援ツールとして内容を整理して見ることができたので良かった。生活指導組み立てシート【図1】は、根拠となる手立てを導き出すのに活用しやすく、実践記録シート【図2】は成果と評価を意識して考えることができた。

ただ、使い慣れるのに少し時間がかかるものであり、今後の使用を考えるのであれば、支援の振り返りや指導素材の整理欄など記述の仕方を工夫する必要もある。

また、PDCA サイクルを意識して指導につなげることはできたが、すべての舎生を対象に実施できるのか不安がある。

### (2) 指導員間の指導の共有について

毎日の棟会で日常的に話し合い、支援方法を探ることができた。対象舎生について指導員が同じ目線で考えることができることは、舎生、指導員双方にとってプラスになったと思われる。

しかし、研究として通常以上に棟会に時間を費やしているのは事実であり、日ごろの実践の中でどこまで丁寧に共有と指導ができるのか不安は残る。今回の研究の中でも、もっと掘り下げて指導にあたる時間が欲しかったとの反省もあり、曜日ごとに数名ずつ決めた舎生の指導内容を確認するなどの実践型の共有方法も考えていく必要がある。

### (3) 観点別評価について

観点項目が分かれているので整理しやすいが、指導員の中でとらえ方が理解されていないのが現状である。評価の方法に迷う指導員がほとんどで、観点別評価に関する学習や、評価方法をマニュアル化する必要性を感じる。観点別評価については、学校全体として取り入れられている内容であり、寄宿舍でも指導員間でしっかりとした知識を深めていかねばならない。

## 3 成果と課題のまとめ

指導員間での指導内容に対する共有と、それに伴うPDCAサイクルの意識を高めるために作成した生徒指導計画作成シートと実践記録シートは、棟内の指導員間の話し合いと指導の手立ての考案の良い手助けとして活用された様子が伺われる。今後の活用の方向性など検討の余地はあるが、個別の指導計画の様式として基本的な形はできあがったのではないだろうか。ただ現在の指導計画の様式を増やすことは指導員の取組みの実状からしても難しい。指導計画の有効な手助けとなる指導

員間の共有かつ整理メモ的な位置で活用できればと考えている。

課題として大きく取り上げるべきは、観点別評価の統一的な理解とその手立てである。評価については指導計画の要になるものであり、指導員間はもちろん学校全体として基準を合わせていく必要がある。寄宿舍として、どのように学習をして学校の評価基準に合わせていくのかが今後の寄宿舍研究の大きな課題である。